

<令和6年4月定例記者会見>

1 開催日時

令和6年4月4日（木）午前10時30分～午前11時

2 場所

滝沢市役所 庁議室

3 来庁した報道機関

岩手ケーブルテレビジョン、岩手日報社、河北新聞社、朝日新聞社

4 発表事項

【案件外】

○市長年度初めのあいさつ

年度始めのお忙しい中、お集まりいただきありがとうございます。また、昨年度につきましても市の様々な情報発信に御理解と御協力をいただきましたこと改めて御礼申し上げます。

さて、令和6年度がスタートしましたが、本年度からいよいよ第2次滝沢市総合計画に基づくまちづくりが開始となります。

やさしさの循環が生まれる地域環境「やさしさに包まれた滝沢」の実現を目指すこの総合計画は、私が市長選挙訴えた公約のほか、これまで市民の皆さんが主体となりながら培ってきた地域づくりの歴史、市政懇談会などで寄せられた市民の皆さんの御意見、市行政が着実に進めてきた各種政策の成果などを踏まえ、滝沢市を形作ってきた取組をさらに前進させるビジョンとしてまとめたものです。

この第2次滝沢市総合計画を推進する大切な予算となる令和6年度一般会計予算につきましては、過去2番目の規模となる205億円の予算として、先月の市議会3月会議において議決をいただきました。議決いただいた予算につきましては、市民が生活の中で「やさしさ」を感じる場面が増えるよう、適切かつスピード感のある執行に努めてまいります。

具体的には、「つながる」「こどもまんなか」「いきいき」「まなぶ」「はたらく」という5つの視点に基づいた重点的な事業展開を図るほか、市の組織体制も市域全体計画にあわせて改編し、市民主体の地域づくりへ支援と、市民生活の基盤の堅持を進めていくこととしております。

この4月市では、13人の新たな職員を迎えましたが、新たに加わった職員も含め、全職員の力を結集しながら、私が先頭に立ち、総合計画を推進してまいりたいと考えています。引き続き、皆様の御理解と御協力を賜りますようよろしくお願いいたします。

(1) 令和6年度鞍掛山山開き式について（観光物産課）

岩手山の麓にあります鞍掛山は、毎年、県内外から3万人近くの登山者が訪れておりハイキング気分でも気軽に登れることから、多くの方々に賑わいを見せています。

また、季節によって景色が変わる鞍掛山はリピーターも多く、毎日登られる方もいるなど、多くの登山愛好家にも親しまれています。

今年も、鞍掛山山開き式を昭和の日である4月29日月曜日・祝日の午前9時から、たきざわ自然情報センター前で開催します。事前申込は不要です。気軽に参加できる行

事ですので、皆様、ぜひご参加ください。

(2) ふるさと納税の推進及びチャグチャグ馬コの継承を目的とするふるさと納税制度を活用したクラウドファンディングの実施について（観光物産課）

令和5年度のチャグチャグ馬コでは、22万3千人という過去最高の人出を記録しました。その一方、装束馬の出馬頭数は55頭と、ピークであった平成2年の102頭から半分近くまで減少しており、大きな課題となっております。滝沢市としましては、市内の馬資源の確保を目的に、メスの農用馬を所有し、及び繁殖させ、生産された仔馬をチャグチャグ馬コへの出馬者に無償で譲渡する取組などを行ってきました。

このような色鮮やかなだけではないチャグチャグ馬コの現状や課題、馬主さんの思い・苦勞について、より多くの皆さんに知っていただきたく、ふるさと納税制度を活用したクラウドファンディングに挑戦することといたしました。

この取組をきっかけに、チャグチャグ馬コの新たなファンの獲得と伝統文化の継承に向けたさらなる支援につながることを期待しております。

二度目となる今回のプロジェクトでは、専用返礼品として本番の行進行事に参加できる権利を御用意いたしました。基本的にチャグチャグ馬コには、出馬者とその家族しか参加できませんので、またとない非常に貴重な機会となります。是非、行列の一員として祭りの熱気を御体感いただければと思います。

なお、昨年度初めて挑戦したこのプロジェクトですが、マスコミ各社の皆様の周知のおかげもあり、多くの御支援を賜りました。誠にありがとうございました。人と馬とが一緒に築いてきた風景を後世に残していくため、引き続き皆様の温かい御支援をどうぞよろしくお願いいたします。

5 市発表案件について記者からの当日質問

記者：クラウドファンディングについて、昨年も実施していたと思いますが、その際はどれくらいの寄附が集まったのですか。

観光物産課長：全国から347万円ほどの寄附をいただきました。

記者：件数はわかりますか。

観光物産課長：285件です。

記者：全国各地の皆さんからですか。

観光物産課長：そうですね。最も多かったのは東京からの寄附で、北は北海道、南は福岡県からも寄附いただきました。

記者：昨年度は3か月で347万円だったとのことですが、今年度は目標額を100万円にしたのはどういった理由ですか。

観光物産課長：今年度は2回目の実施となり、毎回目標金額を高くしていけばいいというものではないということ、実施しているサイト側とも協議をして、あくまでも通過点として100万円を設定しました。今回は馬コ行事とタイミングを合わせているので、より多くのご支援をお願いできるのかなと考えております。

記者：返礼品としては、チラシに掲載のチャグチャグ馬コへの参加券A、Bとお米の3つということよろしいですか。

観光物産課長：掲載しているものはあくまでも「売り」としている部分で、ふるさとチョイスのサイトに掲載されている返礼品はすべてが対象になります。その中で、今回特に推したいものをチラシに掲載したものです。

記者：滝沢市に寄附するという形は普段のふるさと納税と変わらないということですか。

観光物産課長：そうです。

記者：参加券 A の 100 万円の寄附というのはなかなか大きな額ですが、返礼の内容としてはおおよそどんなことを想定していますか。

観光物産課長：前日にある写真撮影会に参加いただき、馬コにまず慣れていただくことや、当日は朝から参加し、八幡宮まで一緒に歩いていただく想定です。

記者：馬コへの参加券を返礼品としたのは今回が初めてですか。

観光物産課長：そうです。

記者：参加券 A の事前練習については、事前に練習期間を設けて、という想定ではないですか。

観光物産課長：前日の撮影会のタイミングで、実際に装束を着た馬と一緒に練習する時間を設けます。寄附いただいた方が遠方の方という可能性もあるため、事前に来ていただくというのは難しいものと考えています。

記者：このクラウドファンディングは、ふるさと納税の限度額が例えば年間 5 万円上限の方は寄附をするとその控除の対象になるということですか。

観光物産課長：そうです。

記者：寄附いただいたのは東京からが最も多かったとのことですが、2 番目は岩手県でしょうか。

観光物産課長：そうです。

経済産業部長：9 月から 11 月までの 3 か月で寄附いただいた中で、返礼品がいない、ということで寄附いただいたものも 3 割程度ありました。ふるさと納税制度自体が通販のような認識になってきているなかで、心からチャグチャグ馬コを応援してあげたいという皆さんが現れたのかなど、事務局側も心が温まるような思いでした。一番はやはりチャグチャグ馬コを知ってもらいたいというところにあるので、継続して開催していくための危機感というか、馬や人手不足などについてもしっかりと伝えて届けていきたいと思っています。

記者：東京からが最も多かったのは何か要因が考えられますか。

観光物産課長：圧倒的に人口が多いというのも一つの要因かもしれません。また、東京チャグチャグ馬コなどの団体もあり、直接的に影響があったかは分かりませんが、そういった皆さんの声掛けや応援が多少なりともあったのかもしれません。

記者：参加券 A（100 万円）と参加券 B（20 万円）は大体何件くらいを想定していますか。

観光物産課長：どちらも先着 1 件のみの受付です。

6 その他記者からの当日質問

記者：冒頭にいただいた市長の所感について、新たな総合計画もスタートし、今年度、この政策はぜひ進めたいというものがあれば教えてください。

市長：今年度から第2次総合計画がスタートし、「つながる」から始まる5つの視点を市民の皆様にご理解いただくこと、そしてこの総計を作るにあたって多くの市民の皆様から様々なご意見をいただいております。その意見をしっかりと織り込んだものになっているということをご分かっていただけるように推進していきたいと思っています。目玉としては、18歳までの医療費に関して、所得制限を撤廃したことが、子育て関連では大きな部分としてあると思います。また、これから最も推進していきたいと考えているのは「つながる」の部分です。コロナ禍により人と人との交流が少し控えられてきましたが、昨年5月にコロナが5類に移行され、少しにぎわいと人の動きが出てきたと思っています。地域づくりであったり、人と人との交流によって生まれる新たなつながりをもう一度作ってきたいと思っています。地域の自治会活動などで培われてきた人間関係をさらに支援していくように、また、新しい形を市民の皆さんと一緒に作ってきたいと思っています。

記者：日赤の誘致については、新たな総合計画とは関連しているのか、関連して進めたい部分があるのか考えを教えてください。

市長：日赤の誘致につきましては、まずは地域医療について、地域の皆さんにアンケート調査をさせていただきます。市の将来に向けて、地域医療の在り方について市民の皆さんから意見をいただきながら、考えていきたいと思っています。医療系のコンサルのほうからも意見をいただきながらやっていきたいと思っています。災害時には自衛隊があり、県内で何かあれば、自衛隊や日赤が連携して駆けつけることができるような環境を作りたいと思っていますが、まずは市民の皆様から地域医療について意見をいただきながら考えていければと思います。

記者：アンケート調査はいつごろ実施予定ですか。

企画総務部長：今年度の後半に実施したいと考えております。前半につきましては、市長の話にもあった通り医療コンサルなどから知見を聞きながら、アンケート項目等を検討して、実際に市民の皆様アンケートを実施するのは後半となる見込みです。